

## 2. 水と緑の現況と課題

### 1. 稲城市の概況

稲城市は、南多摩地区の東端にあり、北は多摩川を隔てて府中市、調布市、西北部は多摩市、東南部より西南部にかけては神奈川県川崎市と接しており、東京都心より南西に約 25km 離れた位置にあります。市の大きさは東西、南北ともに約 5.3km、面積 17.97km<sup>2</sup> で西から北にかけて大きく弧を描き、南はつぼまっけて「市の木」イチヨウの葉のような形をしています。

多摩川に並行して標高 40~50m 程度の平坦地が広がり、その南側には標高約 80m のなだらかな多摩丘陵（最高海拔 162m）があります。また、市の中央を南西から北東にかけて三沢川が流れ、市域を西北部と東南部の二つに分けています。そして、市域北部の平坦地には、多摩川から取水した大丸用水が網の目のように流れています。

市域は、地形やまちの発展過程が異なる、平坦地（既成市街地）・三沢川左岸丘陵地・三沢川右岸丘陵地・平尾地区の 4 つの地域に大別できます。

このように、各地域の発展や成り立ちが大きく違いながらも、大きく広がる多摩丘陵の樹林地と豊富な水に恵まれており、都心から近い位置にありながら豊かで多様な自然があることが大きな特徴です。

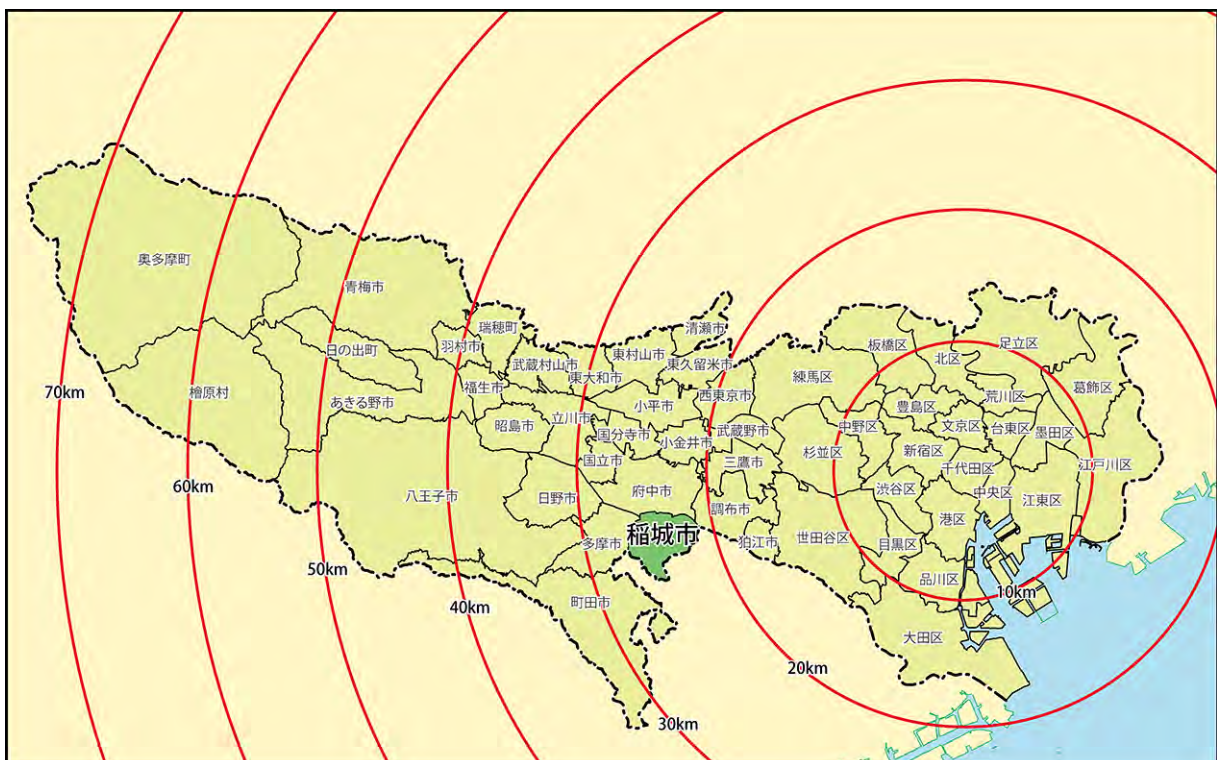


図 2-1 稲城市の位置

## 2.水と緑の特徴

### (1) 緑の環（都市計画マスタープランより）

稲城市の緑は、多摩川と丘陵地の緑からなる「緑の環」を骨格とし、三沢川と大丸用水の豊かな水とで構成されています。

#### 《緑の構造》

北側には広大な多摩川河川敷が広がっています。稲城市は多摩丘陵の東端部に位置しており、多摩丘陵の連続した斜面緑地と多摩サービス補助施設、ゴルフ場などの自然的な土地利用が図られている丘陵地が稲城市の緑の骨格です。これらを合わせて「緑の環」と呼んでおり、緑豊かな稲城市の主要な要素となっています。

稲城市は農業が盛んであることから、多摩川沿いの平坦地、坂浜地区などに梨園を主とした農地が広がっています。これらの農地は、ゆとりある土地利用をもたらしており、丘陵の斜面緑地とともに稲城市を形成する主要な要素となっています。

#### 《水の構造》

市域の北側には多摩川が流れています。丘陵地の北側に広がる平坦地には、多摩川を水源とした大丸用水とその支流である多くの用水系が東に流れており、市街地にうるおいをもたらしています。

神奈川県川崎市麻生区の黒川地区を源流とする三沢川が、市域のほぼ中央部を鶴川街道と並行するように北東方向へと流れており、多摩丘陵を西北部と東南部の二つに分けています。





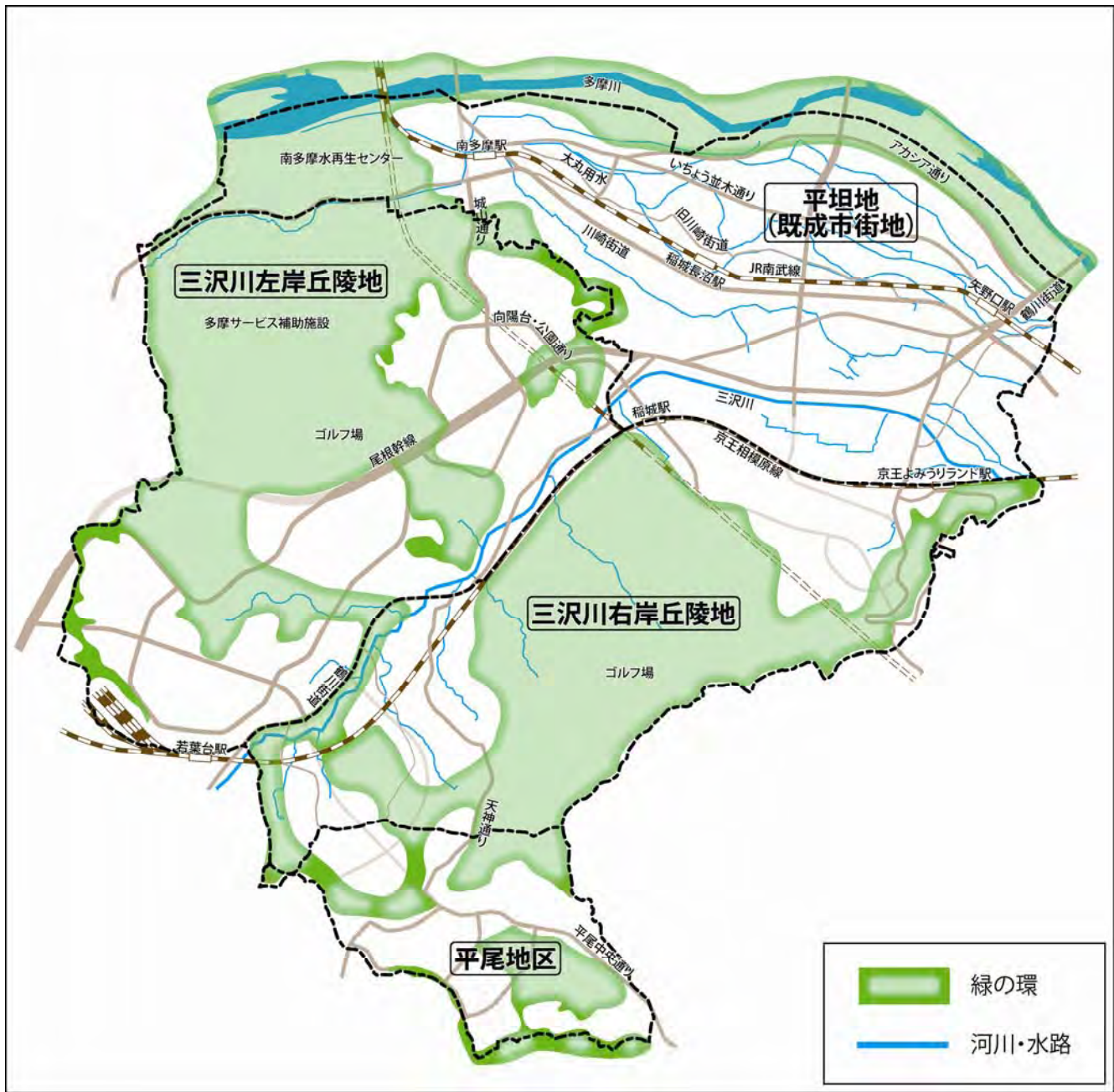


図 2-2 水と緑の構造



## (2) 樹林地などの状況

下の図は、航空写真で確認した概ね 1,000 m<sup>2</sup>以上（薄い緑）と 5,000 m<sup>2</sup>以上（濃い緑）のまとまりのある樹林地などについて示したものです。

図からわかるように、三沢川左岸丘陵地では、多摩ニュータウン区域の西北部の丘陵斜面の樹林地、三沢川右岸丘陵地では三沢川に沿う丘陵斜面の樹林地が主体となっており、多摩川沿いの既成市街地からもよく見えます。平尾地区では、三沢川右岸丘陵地から続く丘陵斜面の樹林地が主なものです。

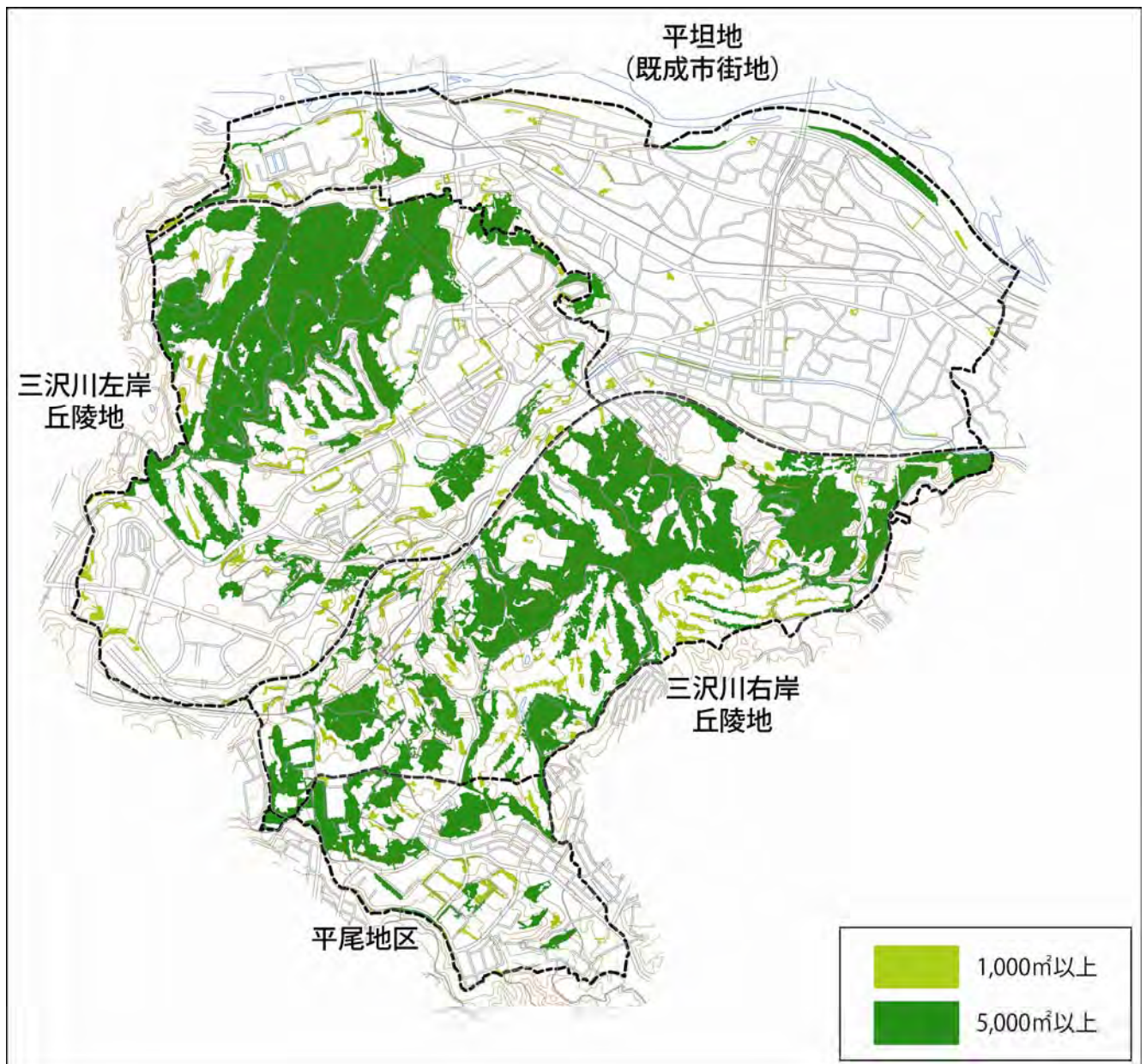


図 2-3 まとまった樹林地など



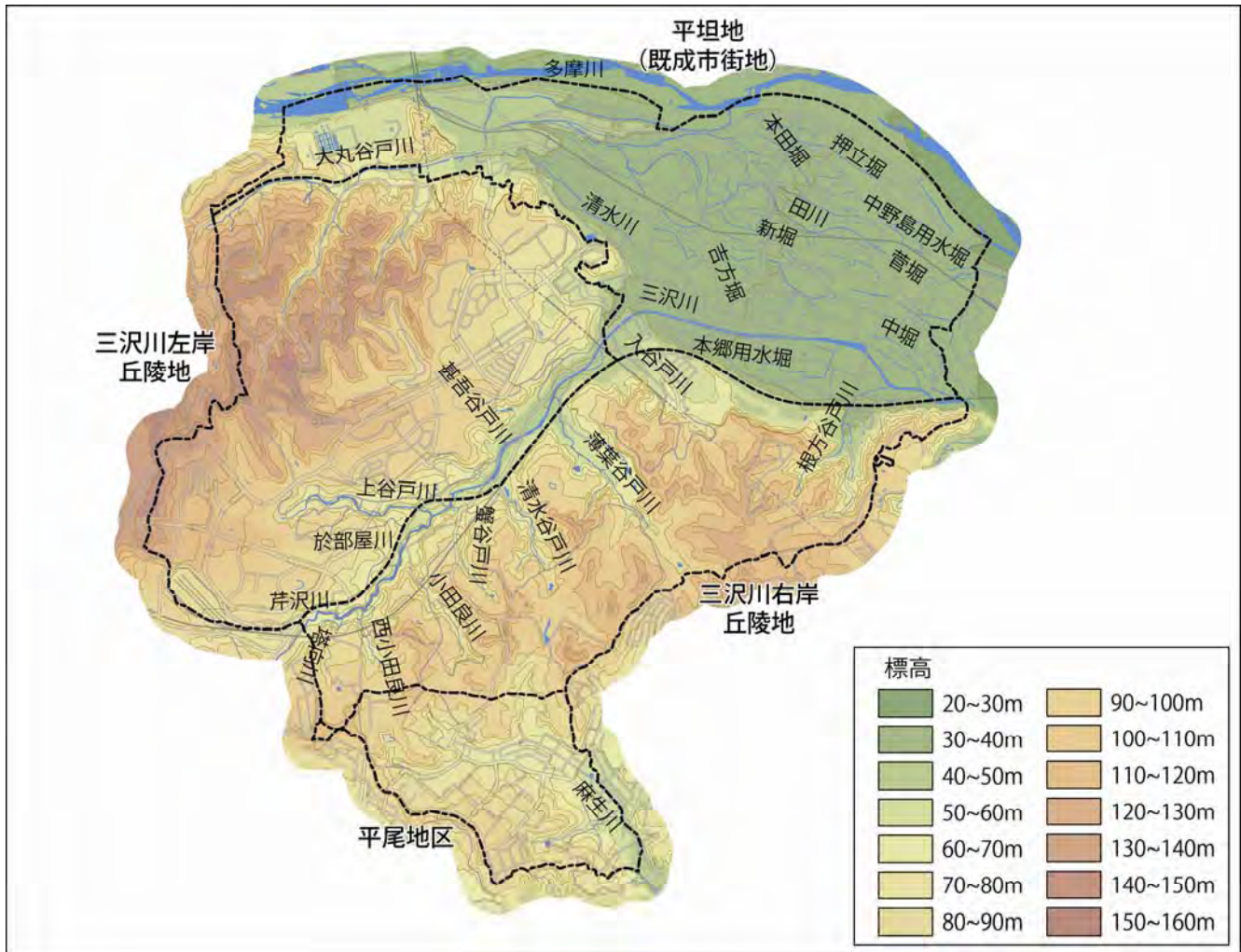
### (3) 水系の状況

稲城市の河川や水路について、等高線によって色を塗り分け、図上に示しました。

河川では、山梨県・東京都・神奈川県へと流れ東京湾にそそぎ国が管理する多摩川、川崎市麻生区の黒川地区を源流とする東京都が管理する三沢川、そして、多摩サービス補助施設内に源を発し稲城市が管理する準用河川の大丸谷戸川の3河川があります。さらに、平尾地域には稲城市と神奈川県川崎市麻生区の境界を流れ、唯一鶴見川水系に属し稲城市を水源として主に川崎市側を流れる麻生川があります。

三沢川には、谷戸に源を発し名称を有する小河川が13河川あります。本流の三沢川沿いは、桜並木の遊歩道などとして整備され、多くの市民の憩いの場となっています。

既成市街地内を流れる大丸用水は、大丸の取水口から多摩川の水を引き入れ、川崎市登戸まで流れる用水路です。市内には用水系が9系統あり、大きな流れは南多摩駅付近で菅堀系、清水川（大堀）系、新堀系の3つが主要なものです。このうち菅堀系の起点付近から1120mが親水公園として整備されています。



三沢川の支流	とうむかいがわ にしこだらがわ せりざわがわ おへやがわ こだらがわ かさやとがわ かにやとがわ しみずやとがわ 塔向川、西小田良川、芹沢川、於部屋川、小田良川、上谷戸川、蟹谷戸川、清水谷戸川、 甚吾谷戸川、うすばやとがわ いりやとがわ ねがやとがわ ほんごうようすいほり 甚吾谷戸川、薄葉谷戸川、入谷戸川、根方谷戸川、本郷用水堀
大丸用水の水系	すげほり しみずがわ おしたてほり しんほり でんがわ きつほうほり なかほり ほんでんほり なかのしまようすいほり 菅堀、清水川、押立堀、新堀、田川、吉方堀、中堀※、本田堀、中野島用水堀

※：都市下水路にも位置づけられている。

図 2-4 稲城市の河川・水路

### 3.緑被の状況

#### (1) 市全体の緑被率

平成21年度(2009年度)に撮影された航空写真をもとに、樹木・樹林、竹林、草地、農地など、植物に覆われた緑被地が、どの程度あるのか調べました。その結果、稲城市の緑被率は56.7%であり、樹木・樹林・竹林が31.4%、草地が18.0%、農地が7.4%となっています。一般に30%を緑被率の目標としている市町村が多いなか、とても緑に恵まれていることがわかります。

大きなまとまりのある緑被地は、三沢川左岸丘陵地の多摩サービス補助施設とその周囲の樹林地・ゴルフ場と、三沢川右岸丘陵地の樹林地とゴルフ場です。また、坂浜・平尾地区から三沢川沿いに、農地や樹林地が分布しています。

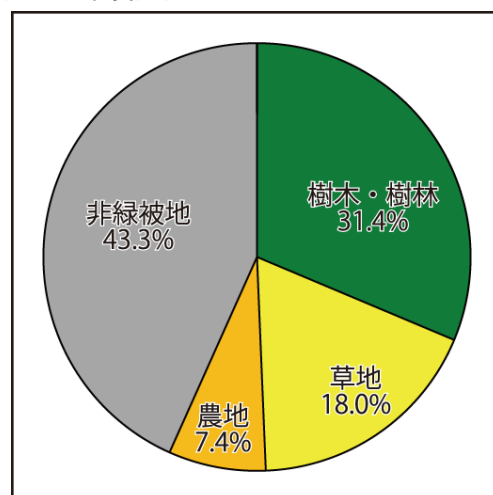
一つひとつの緑被地の規模はそれほど大きいものではありませんが、平坦地(既成市街地)では梨園を主とした農地が多く分布しており、市街地の空間にゆとりとうるおいをもたらしています。

平成21年度(2009年度)緑被率 **56.7%**

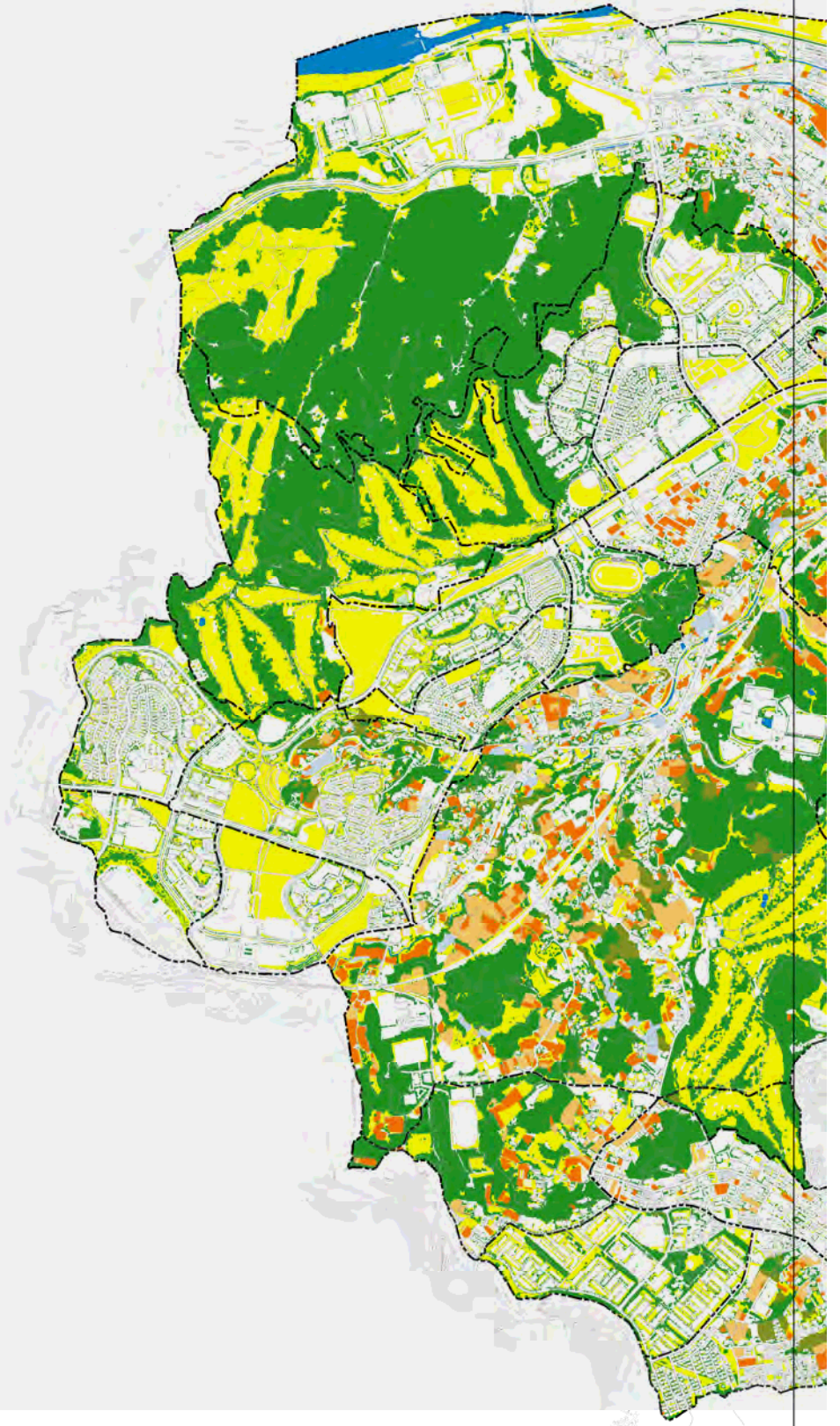
表 2-1 緑被地の内訳(平成21年度(2009年度))

区分		面積(ha)	構成比	備考
緑被地	樹木・樹林	539.80	30.0%	
	竹林	23.47	1.3%	
	樹木・樹林(人工面)	0.12	0.0%	屋上など
	小計	563.39	31.4%	
	草地	323.77	18.0%	
	草地(人工面)	0.11	0.0%	屋上など
	小計	323.88	18.0%	
	畑	55.46	3.1%	
	果樹園・苗圃	69.83	3.9%	
	田	7.08	0.4%	
	小計	132.37	7.4%	
緑被地計		1,019.64	56.7%	
非緑被地	水面	13.60	0.8%	
	その他	763.76	42.5%	
	非緑被地計	777.36	43.3%	
市域計		1,797.00	100.0%	

(端数処理の関係から合計が一致しないことがあります。)







1:25,000

0 250 500 1,000 m

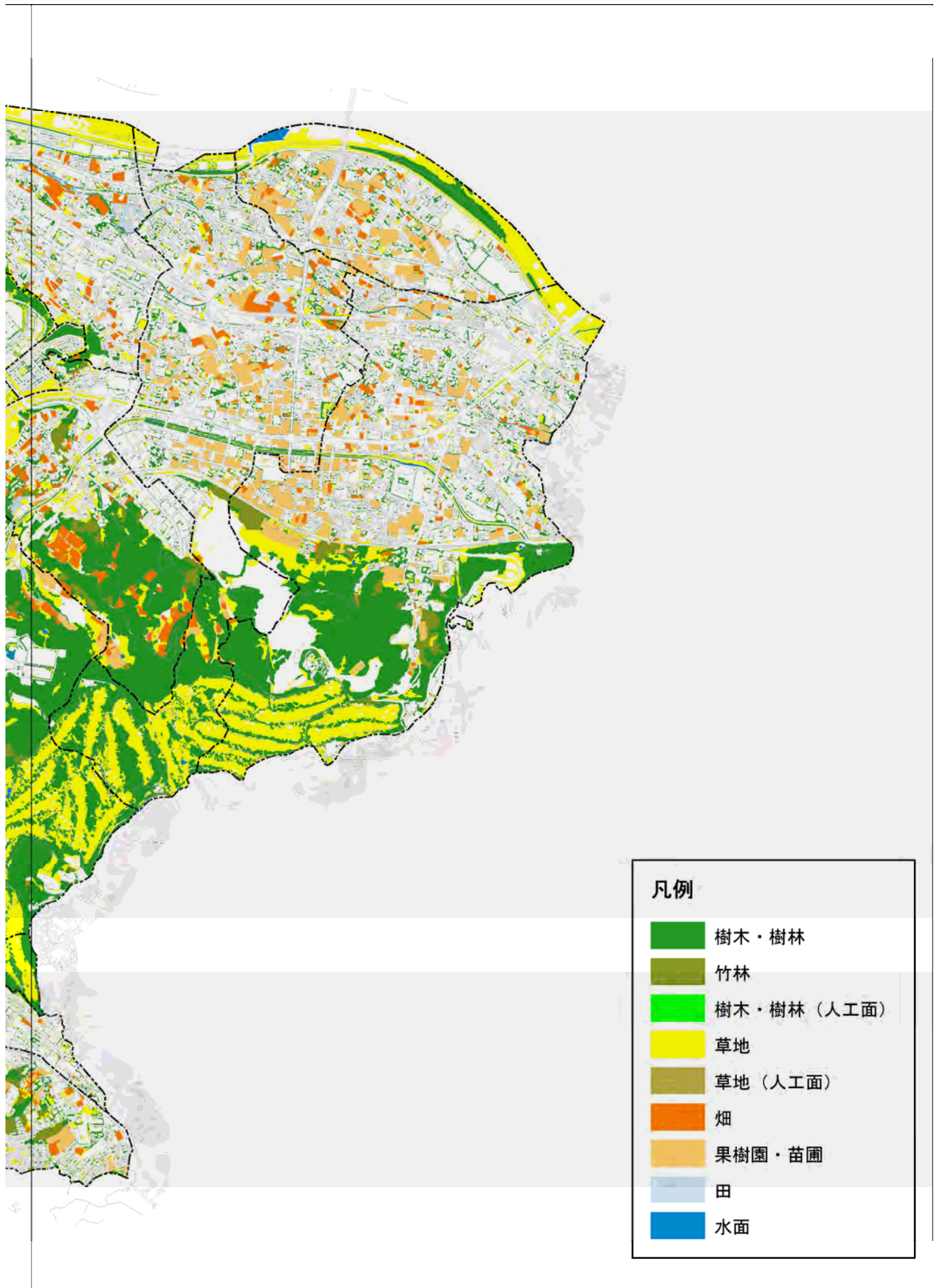


図 2-5 緑被現況図 (平成 21 年度 (2009 年度) )